

第 30 回 奈良中心市街地公共交通活性化協議会 議 事 録

1. 開催日時 平成 29 年 12 月 18 日（月） 10:00～11:30

2. 開催場所 奈良市役所 北棟 6 階 第 22 会議室

3. 出席者

会 長 奈良市長 仲川げん
副 会 長 京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻教授 藤井聡
委 員 近畿運輸局奈良運輸支局長 米田一彦 （代理） 中井睦
委 員 近畿地方整備局奈良国道事務所長 宮西洋幸
委 員 奈良市自治連合会代表 尾形季久雄
委 員 公益社団法人奈良市観光協会会長 乾昌弘 （代理）門脇信義
委 員 西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部大阪支社総務企画課長 長澤卓夫
（代理） 岡本理未
委 員 近畿日本鉄道株式会社総合企画本部計画部長 金口正幸 （代理）森本治実
委 員 公益社団法人奈良県バス協会専務理事 山口勝彦
委 員 奈良交通株式会社乗合事業部統括部長 後藤秀雄
委 員 一般社団法人奈良県タクシー協会専務理事 吾妻 孝義
委 員 一般社団法人奈良県タクシー協会奈良市部会業務部長 杉本吉一
委 員 奈良県奈良警察署長 太田哲示 （代理）東宏英
委 員 奈良県警察本部交通部交通規制課長 森田誉己
委 員 奈良県奈良土木事務所長 木村道仁 （代理）向井一富
委 員 奈良県県土マネジメント部次長 森本修
委 員 奈良市市民生活部長 川尻茂

（欠席）

委 員 一般社団法人奈良市商店街振興会会長 正木康雄
委 員 奈良県交通運輸産業労働組合協議会事務局長 霜永勝一
委 員 奈良県県土マネジメント部まちづくり推進局次長 増田哲司

事務局 奈良県県土マネジメント部道路環境課
奈良市市民生活部交通政策課

4. 議事

◆事務局からの説明

- (1) 平成 29 年秋期の取組内容と結果（速報）
- (2) 連携計画の取組概要と目標達成状況（速報）
- (3) 平成 30 年度の取組内容（案）

◆審議内容（主な意見）（●：委員の意見 ○：事務局回答）

1) 平成 29 年秋期の取組内容と結果（速報）について

- 木簡型一日乗車券の特典を利用されなかった方の理由は何か。
- 一番多い理由として、来訪客が多い東大寺の特典がないことが挙げられている。来年度以降も東大寺での特典利用について協議していきたい。
- 路線バスやぐるっとバスを利用する方の割合は増加しているのか。
- バス利用者は、増えている。訪日外国人では、東南アジア系の方はバスの利用率が高いが、ヨーロッパ系の方は、徒歩の割合が高い。
- 最初にぐるっとバスを走らせたのはいつか。
- 平成 23 年である。
- ぐるっとバスを開始した当初は、インバウンド対応を想定していなかったのではないか。インバウンドの増加を踏まえ、バスのボリュームやサービスが適切か見直さないといけない。
- 公共交通分担率の母集団の 340 サンプルは、日本の方ばかりか。
- 日本人が対象である。
- 大宮通りの渋滞は県庁東交差点の東側で詰まっているとのことだが、この先詰まりの原因として、駐車場に入ろうとした車が満車で入れずに停車する、外国人観光客が白タクと呼ばれるジャンボタクシーに乗り合わせて、大仏殿交差点のところに停車するなど、原因の把握はされているのか。
- 先詰まりの原因として、大仏前駐車場への観光バスの出入りによる速度低下、その手前のバス停にバスが停まった時に詰まる。また、その近くの横断歩道の歩行者横断による詰まり、大仏殿交差点では、白タクなどの乗り降りでの渋滞が発生している。以前までは春日大社の駐車場が満車になり詰まっていたが、それに関しては、大仏殿交差点で通行を強制的に直進させないという取組を実施したことで解消した。
- 把握されている渋滞要因をもとに、次の春に向けた対策の検討をお願いしたい。
- 渋滞が 2 倍になっているわけだが、交通量が 2 倍になったわけではなく、交通量が数%程度伸びた程度で、需要に対しては誤差の範囲の程度である。一方で、パーク・アンド・ライド（以下、P&R）駐車場は現状 500 台の規模で、仮に交通量が 30,000 台で、その 3%として、900 台の車が流入するのを止めれば渋滞は解消する可能性が十分にある。P&R 駐車場への誘導看板の設置は非常に効果があるが、工夫の余地がある。駐車後に自転車やバスが利用できることを誘導看板で伝えてはどうか。2 点目に、自動車から公共交通への転換についても検討する必要がある。

2)連携計画の取組概要と目標達成状況（速報）について

- P&R 駐車場から整備中である県庁バスターミナルまで1時間に5本程度の無料バスを走らせる等の提案はないのか。またはP&R 駐車場から東大寺まで無料バスを10分に1本走らせる等すれば利用者が増えるのではないかと。
- P&R 駐車場の駐車後の移動手段に関しては、基本的にはぐるっとバスを利用していただくことを想定している。現在、奈良公園ルートは15分に1本で走らせている。
- ぐるっとバスは現状の15分に1本を10分に1本に増便することが必要である。また、P&R 駐車場利用者と一般のぐるっとバス利用者が同じバスに乗るとなるとP&R 駐車場利用のインセンティブがない。さらに、ロードプライシングや、中心部に近いほど、駐車場の料金を高くし、その収益をP&R 駐車場の経営に充てるなどの駐車場施策を進める必要がある。
- 日本では、ロードプライシングは、システムや制度的に導入が難しいが、コンジェスチョンチャージとして、観光ピーク期のみ駐車場料金の値上げを実施できないか。ピーク期のみであれば民間駐車場との合意形成も可能と考える。ただし、値上げによって駐車場利用者が減少することに対する赤字への補填はないことを前提として、実施する必要がある。国内事例はあるのか。
- 駐車場のコンジェスチョンチャージの事例は国内にない。
- 奈良であればコンジェスチョンチャージは適用しやすいと考える。
- 京都でコンジェスチョンチャージは実施していないのか。
- 京都は実施していない。
- 京都の公共駐車場は一般駐車場の2~3倍と聞く。
- 公共駐車場の料金を上げることは可能と考える。あとは社寺等に協力をお願いすることになる。コンジェスチョンチャージが民間駐車場でもうまくいくのか疑問だが、抜本的な対策を打たないと意味がない。車椅子利用の方など、一部の例外は生じると考えるが。
- 車椅子利用の方は車椅子マークの掲示でチャージなしとして対応できる。駐車場料金は1000円程度の値上げをしないと効果はない。
- 駐車場施策は民間と行政で進めていく必要がある。
- 外国人観光客の方が利用する白タクを大仏殿交差点で乗り降りができないようにする法規制ができないか。
- 白タクの規制は難しい。大仏殿交差点は駐停車禁止で、そこから東側も駐停車禁止の規制がかかっている。現在は大仏殿交差点東側にタクシー専用の降り場を整備している。
- 大仏殿交差点前後の数メートルを駐停車禁止とする等、何か規制をする必要がある。
- 大仏殿交差点は奈良公園事務所と協力して、交差点内に車を停めにくい環境に改良する考えである。
- 路上での駐停車はバス運行にも支障が生じている。
- 白タクであることを証明することが難しいため、規制が進まない。大阪では一部規制され、減少傾向にあると聞いた。
- 抜本的な仕組みづくりをするのが、この会議の目標と考える。1つは、中心部の駐車場料金の値上げ、もう1つはP&R 利用のインセンティブを高めてはどうかと思う。
- 今年の4月から、国では、モデル都市においてICTを活用した中心市街地の交通状況の把握

を進めようとしている。その上で、エリアプライシングや、駐車場料金の変動性等の取組に繋げていく考えである。第1回の公募で、鎌倉市と京都市が選ばれている。国としても ICT 技術を活用し、交通状況を緻密に把握することは力添えできる。

- 交差点にカメラを設置し、そのデータからナンバープレートの分析ができないか。たとえば、県庁東交差点にカメラを設置し、県外ナンバーを分析する、白タクを把握するなど、より制度の高い交通データの把握も必要と考える。

3)平成 30 年度 of 取組内容 (案) について

- P&R の誘導看板について、駐車は無料であること、さらにそこから無料の自転車や、15 分に 1 本のバスに乗れることが情報として付加されていると利用が増えるのではないか。ただし、あくまでも無料駐車場であることを強調することが必要である。ロードプライシングについては、スキーム構築の動きを事務局で始めてはどうか。社会実験から始めると良い。民間駐車場との合意形成が難しい場合は、収益の一部を補填することも考えられる。ロードプライシングは日本ではできていないが、ロンドン、ストックホルム、オスロでは既に実施されている。その先例を奈良市で始めてはどうか。
- ロードプライシングについて、まずは研究していただき、奈良にどういったまちをつくるのか、その制度設計を事務局にお願いしたい。来年度の春は、平城宮跡歴史公園の開園や、イトーヨーカドー跡地活用の予定があり、平城宮跡から大宮通りを通過して東大寺へ向かう動きも活発になる。交通渋滞を徹底的に解決する抜本策を考えたい。
- アンケート等では、インバウンドのデータがとれていない。また、自転車を乗られている外国人の方も多いため、その対策も考えていきたい。
- 自転車利用の促進は、市でも観光部局中心に、観光地間の乗り捨て可能なシステム導入を検討している。
- インバウンドの鉄道利用者は増えている。外国の利用客の詳細は把握できていないが、その対策も今後必要と考える。
- ぐるっとバスの色分けをされたことで駅から案内しやすくなった。今後も利用される方のメリットになるような施策の検討をお願いしたい。
- 外国人観光客の方でレンタカーを利用されている方もいらっしゃるため、駐車場対策は必要である。経路探索システムとして、ぐるっとバスのシステムが公開されているが、観光客の方はバス停がわからない方が多い。任意の 2 地点で経路検索できるシステムを開発できないか。
- バス利用で、日本語がわからない方や、バス停がわからない方に対しては何か対策を打てないか。
- バス利用の案内について、来年度は奈良市域を運行するバスには、英語対応を含めたバスロケーションシステムを導入する予定である。まずはそこから検討したい。
- P&R 駐車場にもデジタルサイネージでバスロケーションシステムを導入してはどうか。
- 本日の議論を踏まえ、可能な範囲で来年度の事業計画に反映いただきたい。

以上